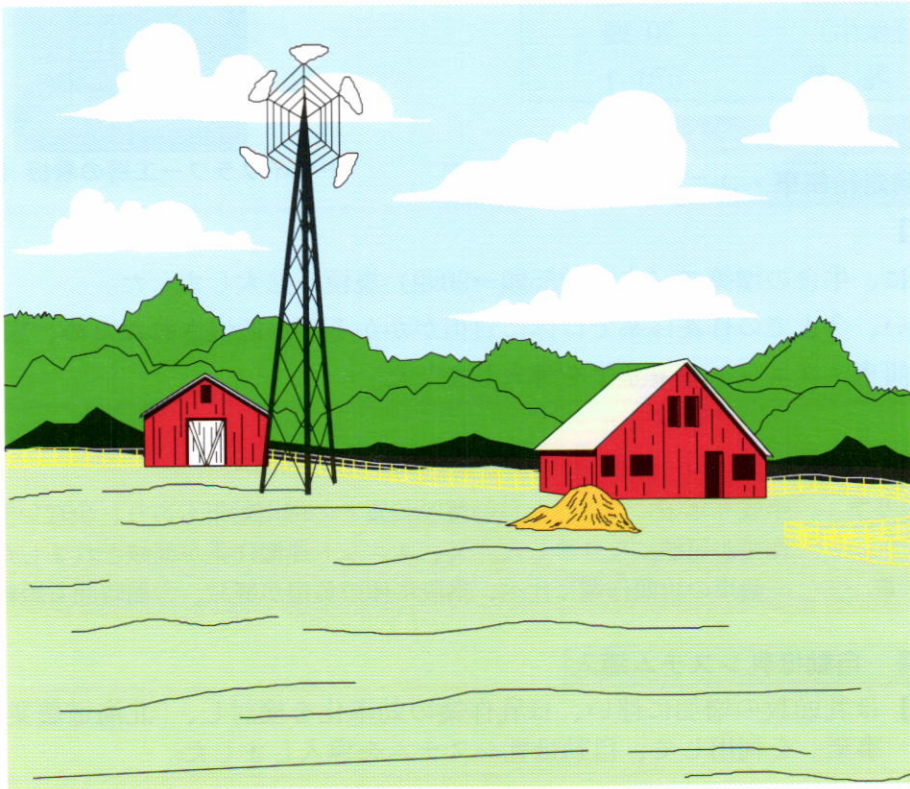


实践事例



事例 1 快適な牛舎環境とうるおいのある生活

「牛にとっても人にとっても、より良い生活環境を実現したい！」そんな夫婦の向上心から様々な経営改善に着手。又、敷地内のドライフラワー工房では、奥さんの手で多くのリース作品が制作され、仕事・趣味共に充実しています。

経営概要

労働力	2人
飼料作物面積	100 ha
乳牛頭数 (うち経産牛)	120頭 70頭
出荷乳量	570 t



ドライフラワー工房の看板(手作り)

こんな取り組みをしています！

平成9年 自走給餌車・ユニットキャリア導入

【きっかけ】

平成9年に、牛舎の増築で(牛床数55頭→90頭)規模を拡大しました。

これに伴い、今までの作業体系では体に負担がかかる事が危惧されたため、家族で話し合い、自走給餌車・ユニットキャリアを導入しました。

【メリット】

ユニットキャリア：平成6年頃に設置した自動離脱装置との併用効果もあり、少ない労働力で搾乳作業が可能になりました。又、ユニット運搬作業が軽減されました。

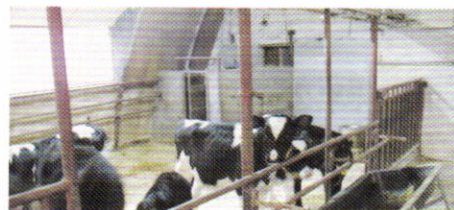
自走給餌車：一輪車の給餌作業に比べ、格段に体の負担が軽減、労働時間も短縮しました。

平成13年2月 自動ほ乳システム導入

【きっかけ】ほ乳頭数の増加に伴い、ほ乳作業の効率化を検討し、「北海道農業元気づくり事業」を利用して、自動ほ乳システムを導入しました。

【導入前】カーフハッチ ほ乳瓶で一頭づつほ乳

- ・ほ乳に時間がかかっていた
- ・天候に左右される(雨の日は作業がづらい)
- ・施設構造上、観察しづらく不調を見逃す事があった



【導入後】牛舎内ペン 自動ほ乳システム

- ・「ほ乳時間」としての時間的制約がなくなった
- ・発育が良くなった
(下痢が軽い・回復が早い、離乳後の体調の崩れない等)
- ・ペンの設置場所や構造上、観察がまめに確実に出来るようになった

